

つづみらい、つくるこころみ。

**あらかわ
チャレンジ**

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

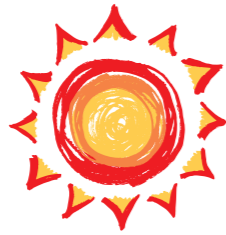
私たちは持続可能な開発目標
(SDGs)を支援しています



あらかわの あしあと

2021年度
報告書

SDGsの視点による、産官学連携のまちづくり



はじめに

本書を手にとってくださった方々へ。

あらかわチャレンジ(略称:あらチャレ)は、新潟県村上市荒川地域のありたい未来のために、地域の大人や子どもが目の前のさまざまな課題にチャレンジする取組です。

さまざまな垣根を越えて、行政・事業者・学校・地域住民のたしかな連携をつくり、誰もがいきいきと安心して暮らせるまちになることを願い、活動をはじめました。

この報告書は、村上市立荒川中学校3年生と地域住民が連携して行った今年度の活動紹介、その評価と振り返りをおこなっています。また一部2016年から現在までの事業の歩みについても掲載しています。

私たちが大切にすることは、世界規模の大きな視点でものごとを考え、あしもとから小さく一歩を踏み出すということです。

地域の特色ある取組につながるヒントとなれば幸いです。ぜひ、ご興味のあるところからお読みください。

児童・生徒・学生のみなさんへ

地域に生まれ育った皆さんが、世界のさまざまな課題や取組を学び、地域に出て行動することは、とても価値があります。

この事業に関わった地域の大人が「中学生ががんばるから私たちも刺激を受けてがんばる」と話してくれました。自分が暮らす地域や世界を想い、踏み出す一歩には社会に働きかける力があります。皆さんの「やってみよう!」「なぜ?」を大切に、さまざまなことに挑戦してみてください。

2021年度の取組は、P9~P26をご覧ください。

地域と連携した授業づくりに興味のある方へ(学校教育分野)

地域は学びのフィールドにあふれています。生徒が地域とつながることで、地域の課題が自分ごとになり、成長と変容が促されます。また、地域と連携して授業づくりを行うことで、多様な学びを提供できるとともに、学校の負担を減らすこともできます。

地域連携の仕組みについてはP4、中学3年生の活動スケジュールはP7、地域と連携した授業についてはP8、事務局の具体的な役割分担はP32-P33をご覧ください。

まちづくりに興味のある方へ(地域づくり分野)

村上市は、住民と行政が一体となって地域の元気づくりを進めるため、「地域まちづくり組織」を設置し、市職員の人的支援と財政支援を行っています。村上市荒川地域の「あらかわ地区まちづくり協議会」は、地域の将来を担う若者がチャレンジする土壌づくりや地域連携の実現に向けてこの事業に取り組んでいます。

学校や多様な団体との組織づくりについてはP4、この活動の成果についてはP27~31をご覧ください。



もくじ

第1章 | あらかわチャレンジとは

- 1.1 あらかわチャレンジについて P04
- 1.2 目指すこと P04
- 1.3 ビジョン・ミッション・バリュー P04
- 1.4 事業体制 P04
- 1.5 事業の全体像 P05
- 1.6 世界とあしもとをつなぐ P05
- 1.7 これまでの歩み P06

第2章 | 取組内容

- 2.1 年度スケジュール P07
- 2.2 地域学習 P08
- 2.3 各プロジェクトの取組紹介 P09~P26

第3章 | 振り返りと評価

- 3.1 振り返り① 短期的成果 P27
- 3.2 振り返り② 中期的成果 P28
- 3.3 評価① 成果のまとめと今後 P29
- 3.4 評価② 成功要因・他地域への提言 P30~P31
- 3.5 事務局より P32~P33
- 3.6 中学校(生徒)より P34

第1章 あらかわチャレンジとは

1.1 | あらかわチャレンジについて

あらかわチャレンジは、世界規模の大きな視点に立ち、持続可能な地域づくりと社会課題の解決のために、村上市荒川地域の地域貢献事業です。

1.2 | 目指すこと

01 地域教育
若者が地域と国際社会について理解を深め、行動し、自己成長する場をつくる

02 地域貢献
地域貢献活動を通じて、持続可能な地域をつくる

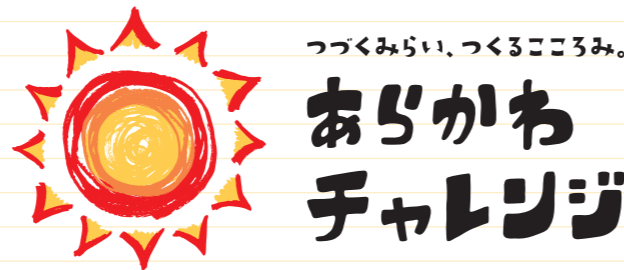
03 土壌づくり
チャレンジし続ける地域の風土をつくる

1.3 | ビジョン・ミッション・バリュー

この事業の目指す姿、使命、提供する価値、ロゴ、タグラインは以下の通りです。

ロゴ(事業の考えを形で表したもの)
太陽をモチーフに、真ん中の円がこの事業、周りの三角に事業に関わる人を表現しました。

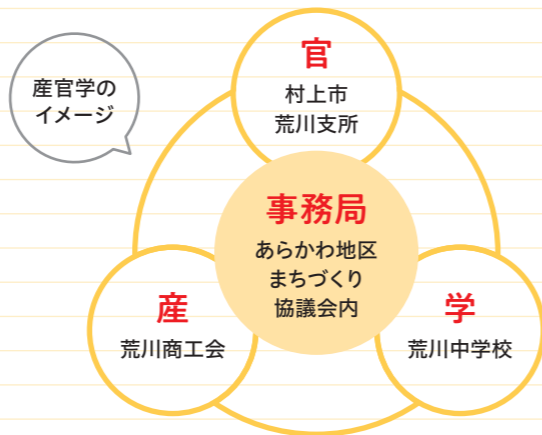
- ビジョン(目指す姿)**
誰もが未来にわくわくできるまち
- ミッション(使命)**
地域の、未来へのチャレンジを後押しする
- バリュー(提供する価値)**
 - 未来を担う若者を育む。(若者の学びと成長に貢献する)
 - 想いを形に。(アイデアを実践する、実現させる)
 - まちの未来を、みんなで一緒に。(まちづくりへ関わる余地をつくる)



タグライン(事業の考えを端的な言葉で表したもの)
つづくみらい、つくるこころみ。

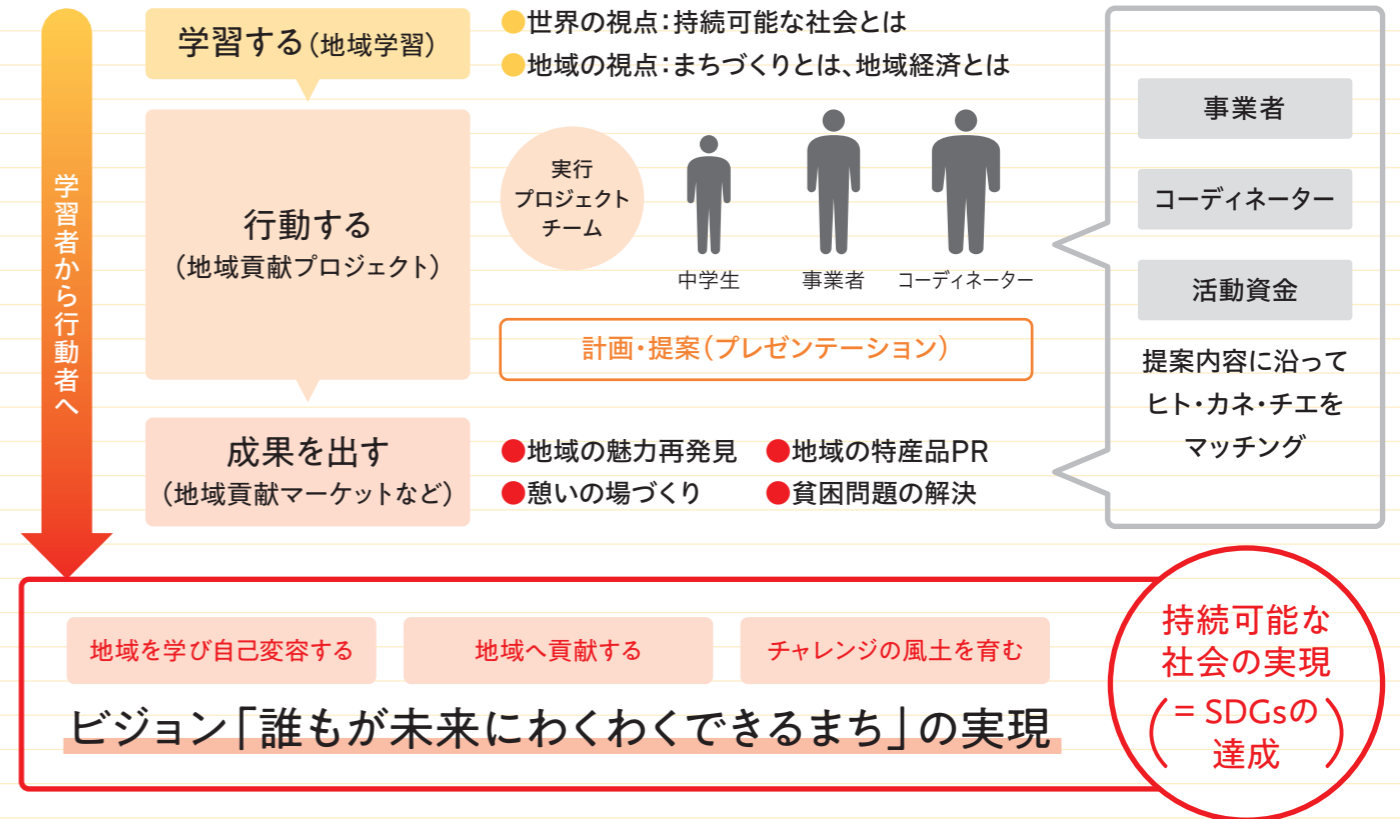
1.4 | 事業体制

この事業を実施する体制は、右図の通りです。事務局を中心に、地域の産官学に関わる組織が、対等な立場で役割分担し、連携しています。



- 事務局(あらかわ地区まちづくり協議会内): 事業の運営、事業予算確保
- 村上市荒川支所: コーディネーター人員の提供
- 荒川商工会: 地元工商事業者との連携支援
- 荒川中学校: 事業に関わる一連の学校運営

1.5 | 事業の全体像



1.6 | 世界とあしもとをつなぐ



私たちを取り巻く社会は、気候変動、自然災害、国際紛争、その他の多くの問題に直面しています。また、自分たちのあしもとに目を移すと、多くの地域が、少子高齢化、過疎化、経済衰退などのさまざまな問題を抱えています。これらの問題を解決するために、国際連合がSDGs :Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)を定めました。世界のさまざまな課題を17の目標にまとめ、世界のみならず2030年までに解決していこうという世界共通の計画・目標です。SDGsは世の中のさまざまな問題を解決するための共通目標として、どのような地域でも活かすことができるという普遍性をもっています。また、SDGsが記載された文書(持続可能な開発のための2030アジェンダ)には、「誰ひとり取り残さない」という表現が使われ、さまざまな地域の問題は世界の問題の一部としてとらえています。そのため、荒川中学校では、生徒が世界規模の大きな視点でものごとを考えると同時に、あしもとから小さく一歩を踏み出すために、SDGsの考え方を全学年の授業(総合的な学習の時間)に取り入れています。この事業では、生徒がSDGsを学び、地域で小さな取組を行うことが、明日の世界を変える一歩になると気づいてもらえることを目指しています。同時に、地域でさまざまな方に触れて、学習者から行動者へ変容し、地域や社会の課題を自分ごととしてとらえるための場となることを目指しています。

1.7 | これまでの歩み

2018年

荒川中学校の一学年からはじまった、小さな取組と成功

3年生が、総合的な学習の時間を活用し、SDGsの考え方を取り入れた地域貢献活動を行いました。

SDGsを学ぶため、地域コーディネーターと村上市荒川支所地域振興課職員を授業に招き、SDGsに関連した村上市荒川地域の現状について、説明を受けました。

その後、生徒は地域イベントで地域の特産品のPRや地産地消スイーツを販売し、大きな自信と達成感を得ることができました。



2019年

SDGsの学びを中学校全学年・全職員へ！ 学校を飛び出し、学びの場は、教室から地域へ！

前年の成果を踏まえて、全学年・全職員がSDGsを学習しました。

1年生は、総合的な学習の時間にSDGsの考え方を学び、村上市荒川地域や新潟市でSDGsに取り組む事業所・団体・専門学校を訪問しました。訪問にあたっては、地域コーディネーターや自治体が連携を行いました。



2020年

前身事業「みんなが主役プロジェクト」スタート 小さな産官学連携が立ち上がり、貢献プロジェクト発足！

荒川中学校、あらかわ地区まちづくり協議会、村上市荒川支所、荒川商工会が連携し、小さな産官学の取組がスタート。SDGsの視点で、地域貢献に取り組む「みんなが主役プロジェクト」を立ち上げました。

3年生は、地域事業者と、SDGsの考え方を取り入れた地産地消惣菜の共同開発や地域の特産品PRなどを行いました。

活動の広がりや深まりが評価され、「第1回新潟SDGsアワード」で、第1位にあたる「大賞」を受賞しました。



2021年

「あらかわチャレンジ」始動！事業の仕組みづくり！

前年の取組をさらに発展させるため、「あらかわチャレンジ」事業が発足しました。事業の“仕組みづくり”が図られ、あらかわ地区まちづくり協議会内に事務局を設置。事業予算も確保され、事業体制が整いました。



第2章 取組内容

2.1 | 年度スケジュール



2.2 | 地域学習

中学生の企画が荒川地域の地域課題に直結したものとするために、地域で活躍する大人の取組について学びを深めました。大人の熱い想いをきっかけとして企画検討を行なった班もあり、地域学習はこの事業の大きな成功要因のひとつとなりました。



ようこそ先輩! 地域の魅力再発見

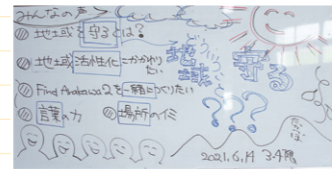
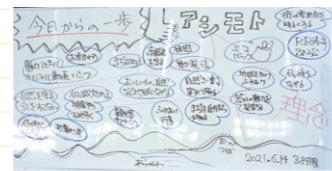
2.2-1 ~Find Arakawaの制作を通して~

講師:あらかわ地区まちづくり協議会 須貝俊大、齋藤瞳

地域の魅力を再発見することをテーマに、第一回目の授業が行われました。Find Arakawaという、荒川地域の魅力を発信する写真集を教材に、地域を見るさまざまな視点が紹介されました。

「ここには何もない、という若者のイメージを変えたい」、「見慣れた光景も別な視点で見ることで魅力を発見できる」という想いが込められています。

須貝さんが大切にしていることとして「できれば楽しいと思うことを否定せず、まずはできる範囲で進めていくこと」と話しました。齋藤さんは実体験を交えながら、中学生の頃にやりたいことに真摯に向き合う意義を話しました。



授業の流れ

- 01 まちづくり協議会とは
- 02 Find Arakawaを深掘りする
- 03 わたしを形作ってきたこれまでの歩みとこれからの意識
- 04 あらかわ地区を磨きあげて考えるよう

キーワード【Refine】=
洗練する、磨きをかける、改良する

2.2-2 地域を守る~地域経済の活性化とは~

講師:荒川商工会 柏檜和子、(株)いろむすび代表取締役 古林拓也

地域経済を知ることがテーマに、第二回目の授業が行われました。荒川商工会柏檜さんは、「地域を守るということは地域で生活し続けられること。地域企業が継続していくために、地域でお金が使われることが大切」と説明しました。荒川地域で山菜屋・宿屋を営む古林さんは、「みんなにとっては当たり前の景色も、この景色を目当てに東京や海外から訪れるお客様がたくさんいる。素晴らしい故郷にもっと興味を持ってほしい」と話しました。

中学生からは、「荒川で起業したい」、「荒川のお店で買い物をしたい」という声が上がりました。地域経済について認識を深めることができました。



授業の流れ

- 01 商工会とは
- 02 地域経済を考えよう
- 03 「あらかわショップ」を考えよう
- 04 限界集落とは
- 05 地域経済活性化・地域課題に取り組む事業者紹介
- 06 地域を守るとは? 経済活性化に繋げるために自分ができることを考えよう

2.3 | 各プロジェクトの取組紹介①

3年1組1班 × おらだり育援隊 様

関連するSDGs



テーマ 空き家の活用で地域活性化を!

01 | 問題意識

年々、地域でも日本全国でも空き家が増加し問題となっている。空き家の増加による景観や治安の悪化に加え、過疎化により地域の雰囲気も暗くなることも心配である。

02 | 願い

●利用が可能な空き家を有効活用し、地域住民のコミュニケーションの場、憩いの場を作り、地域の雰囲気を明るくしたい。

03 | 概要

おらだり育援隊様とコラボし、元空き家だったおらだり基地を活用して小学生対象のプチ学習会や、SDGsクイズ大会を実施する。

04 | 流れ

- 10月 9日 minzu様による写真撮影講習会
- 10月26日 おらだり基地清掃(窓ふき)
- 11月 3日 おらだり基地でプチ学習会実施(中学生が村上市×国数社の問題作成)
- 11月23日 イベント「つどいばおらだり」でSDGsクイズ大会実施
- 中学生が撮影した荒川地域の風景写真展

05 | 成果

- 地域の空き家問題や空き家活用のための取組を学び、来場者に伝えることができた。
- 両イベントに延べ50名以上の参加があった。参加した小学生からは「また来たい」という声が多く、子どもたちに憩いの場を作ることができた。
- SDGsクイズにはSDGsを学ぶ大学生の参加もあり、さまざまな世代間の交流が生まれた。
- 地域の温かさと繋がりの大切さを学んだ。

生徒の振り返り

- 荒川地域の課題や地域づくりについて地域の皆様と向き合うことができ、とても良い経験になりました。一人ではなく地域の方々と共に行動を起こすことが大切だと思いました。
- 私たちの活動も地域の人の協力がなければ実現しなかったし、おらだりイベントも地域の人の話し合いでできたものでした。全てのことが人との繋がりがなければできないと感じました。
- 私たちのこの活動がこの地域の未来づくりにつながったのなら嬉しいし、来年も再来年も受け継いでほしいと思いました。
- おらだり基地は元々空き家でしたが、今では多くの人々の交流の場となっています。空き家は十分に活用できることがわかりました。
- 「空き家でも活用すれば地域のために役に立てられる」ということを、多くの人たちに知ってほしいと考えるようになりました。

あらチャレ事務局から
3年1組1班のみなさんへ

「空き家も活用の仕方によっては地域を明るくする資源になる」—すばらしい発想の転換からスタートしたこの班。計画や役割分担などの準備にも良く気が回り、計2回のイベント計画は自分たちで作りました。小学生のパワーに負けずに取り組む姿、堂々としたプレゼンの姿は、立派な地域の担い手でした。(須貝)



2.3 | 各プロジェクトの取組紹介②

3年1組2班 × 御菓子の小島屋 様

関連するSDGs



テーマ 和菓子×笑顔すまいるん♪

01 | 問題意識

日本の食料自給率は38%と低く、外国産に依存している。輸入が多いとフードマイレージが高くなり二酸化炭素の排出量も多くなる。また、食の欧米化により日本人の米の消費量が減少していることも問題だと考える。

02 | 願い

- お米や地産産のものをたくさんの人に食べてもらい、荒川地域の良さを伝えたい。
- 食べた人が笑顔になるようなスイーツを作り、地域に笑顔の輪を広げたい。
- 地域のお店を多くの人に知ってほしい。

03 | 概要

御菓子の小島屋様とコラボし、米粉や地域の特産品を使った和菓子を考案し、イベントで販売する。

04 | 流れ

- 事業者様と和菓子について打ち合わせ
- 和菓子の考案や材料の発注
- チラシ、ポスター、帯、引換券の作成
- 10月23日 地域貢献マーケットで、さつまいもの形をした和菓子「すまいるん♪」を販売
- 11月15日から店舗販売開始
- 11月21日 荒島ミニマルシェで販売

05 | 成果

- 新潟県の特産品である米の活用方法を学ぶことができた。
- スタンプを活用した帯づくりの工夫やスイーツのデザイン、製品完成までの過程などを学ぶことができた。
- 「食べてくれる人が笑顔に」を商品名や商品、パッケージで表すことができた。
- イベント後は店頭でも販売していただき地域の方々にも知っていただくことができた。

生徒の振り返り

- 個数の集計をしたときに200個程の注文があり、地域貢献の仕事ができたと思いました。
- ポスターやお昼の放送を惹きつけられるようにしたり、絵を描いてイメージを膨らませたりとたくさん工夫をしました。
- 地域の人や大人が関わることで、できる範囲が広がり、いろいろな人に伝わるのがわかりました。何かをきっかけに人の輪を広げられるということを学びました。
- 地域の資源をどのように使い、伝えるかを考えることはとても難しかったけど、とてもやりがいを感じました。
- 地域貢献マーケットでの販売の際に、みんなが笑顔で帰っていったので、とても良い気持ちになりました。目標だった地産産の和菓子×笑顔を実現することができました。

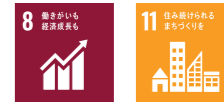
あらチャレ事務局から
3年1組2班のみなさんへ

地産地消に取り組みうと、さつまいもや米粉の調達の間合せをするなど、自分達で出来ることを一生懸命行い、広告用ポスターやラベルも助け合って制作しました。そして、小島屋さんの熟練の技で誰もが食べたら笑顔になる、まさにすまいるん♪な商品が完成！みんなの笑顔もいっぱいの商品開発、とても印象的でした。(柏檜)



3年1組3班 × かねま鮮魚 様

関連するSDGs



テーマ 地域の食材からつくるコロッケ

01 | 問題意識

私たちが普段口にしてる食材は外国産のものが多い。地産産野菜の安全性や栄養価の高さを身近に知る機会が少ない。

02 | 願い

- 地域で取れた野菜を美味しくいただくことで地域の農家さんを応援したい。
- 地産地消を促めることで、地域経済活性化につながってほしい。
- 健康や地産地消への意識が高まってほしい。

03 | 概要

かねま鮮魚様とコラボし、地産産のかぼちゃを使ったコロッケを販売する。

04 | 流れ

- 事業者様とコロッケについて打ち合わせ
- かぼちゃコロッケのレシピの考案
- お店で取材
- チラシやポスター、ポップ制作
- 11月21日 荒島ミニマルシェで販売

05 | 成果

- 地産地消のメリットを、地域農業の活性化や健康増進、気候変動対策と関連付けて考えた。それらを分かりやすくチラシやポスターにまとめ、多くの人にその意義を発信することができた。
- 地域のお店にポスターの掲示を依頼したり、事業者様に販売数量の増産を依頼したりするなど、班員で話し合い、自主的に活動することができた。

生徒の振り返り

- SDGsは世界の問題でもあるけれど、一人一人の問題でもあると改めて感じました。
- 事業者様から優しくさまざまなアドバイスをいただいて、やはり荒川地域には優しい人が多く、とても良い地域だと思いました。
- 最初はとても不安で、事業者様との電話から緊張していたのですが、どんどん進むにつれて楽しくなってきました。販売当日は4分で売切れ、とても嬉しかったです。
- 販売活動が楽しかったので、またやってみたいです。
- 班員の協力や事業者様の支援のおかげで、すぐに売り切れてしまうほどの人気商品を作ることができました。多くの人たちの協力のおかげで大成功で終わることができ、嬉しく思います。

かねま鮮魚様から
3年1組3班のみなさんへ

地域の食材を活用し、事業者様が製造販売しやすく、そして購買者にとって家庭の食卓に上る頻度が高いコロッケに着目した点が即売という大成功に繋がりました。中学生の意思で商品販売のポスターを地域のショッピングセンターに掲示したり、販売数量の増産を依頼してくれたり、一緒にコロッケを懸命に売ってくれる姿を見て、愛情をもって商品をお客様に届ける意欲の高さは大人としても学ぶところが大きかったです。今後も再販を含めて新規顧客を取り込み、地域の魅力ある店舗となるよう頑張りたいです。



2.3 | 各プロジェクトの取組紹介③

3年1組4班 × あらかわ地区まちづくり協議会minzu様

テーマ 荒川の魅力を発信!
～荒川地域の魅力の増加と、SDGs活動でまちを豊かに～

関連するSDGs



01 | 問題意識

少子高齢化や人口減少といった社会課題が深刻となっている。荒川地域も限界集落になってしまうのだろうか？

02 | 願い

- 荒川地域の隠れた魅力を発信することで、地域を活性化させたい。
- 自分たちの地域をよく知ることで『地域を愛する人』が増えてほしい。

03 | 概要

あらかわ地区まちづくり協議会minzu様とコラボし、荒中生オリジナルの地域の魅力発信フォトブック『Find Arakawa2』を作成・配布する。

04 | 流れ

- 10月9日 minzu様による写真撮影講習会
- Find Arakawa2制作、校正
- SNSでイベント告知
- 11月21日の荒島ミニマルシェと23日のつどいばおらだりで来場者に配布

05 | 成果

- フォトブックの構成、写真の選定、メッセージなど、全て中学生だけで考え作り上げた。
- 写真撮影講習会で、写真の技術を身に付けるだけでなく、地域の発信方法を学び、フォトブック作りに活かすことができた。
- フォトブックを全校生徒やイベント来場者に配布し、「地域を持続させたい」と願う中学生のメッセージを多くの方々に発信することができた。

生徒の振り返り

- minzuの方々から写真の撮り方のコツや編集の技術を学び、それを活かすことができました。
- 自分たちの考えを受け入れていただき、アドバイスもいただくことができました。完成度の高いものをつくることができ、達成感でいっぱいです。
- 手に取ってくださった方が「Find Arakawaを売らないのはもったいない」と言ってくださり、改めてその価値を実感しました。
- 将来のことも考える良い機会となりました。
- 自分自身に行動力がついたと実感しているし、班員同士も以前より自分の意見を言いやすい環境になったと感じます。

あらチャレ事務局から
3年1組4班のみなさんへ

minzuの取組に共感してくれてありがとうございます！写真教室では真剣に作品作りに向き合っていました。見慣れた風景を違った角度で切り取ることで感動や懐かしさを与えました。君たちにも成人してから見返して、エモさに浸ってもらいたいですね(笑)これからも同志として、一緒に地域の魅力を発信していきましょうね。(須貝)



3年1組5班 × パティスリーマルヤ様

テーマ 地産地消のスイーツ作り

関連するSDGs



01 | 問題意識

村上市の過疎化が進んでしまうと、地域の魅力や伝統がなくなってしまうのではないかと。日本の食料自給率が低いことも問題である。

02 | 願い

- 多くの人に荒川地域の魅力を知ってほしい
- 地場産食材でインパクトのある商品をつくり、荒川地域の食材に注目してほしい。
- 荒川地域が良い街として広まってほしい。

03 | 概要

パティスリーマルヤ様とコラボし、インスタ映える地産地消インパクトスイーツを作って販売する。

04 | 流れ

- 事業者様とスイーツに関する打ち合わせ
- チラシ、ポスター、シール、引換券作成
- 地場産の苺のジュレとムースが米粉を使った餅シートに包まれた「もちりん」を10月23日の地域貢献マーケットで販売
- 11月15日から店舗販売開始
- 11月21日 荒島ミニマルシェで販売
- 11月23日 つどいばおらだり販売

05 | 成果

- 地産地消へのこだわりを事業者様に伝え、商品にしていただくことができた。
- 事業者様手作りのチョコペンから、プラスチックごみを減らすための工夫を学ぶことができた。
- 材料費や販売価格の設定など、ものづくりに関わる知識を学ぶことができた。

生徒の振り返り

- 自分たちで考えたものを購入していただき「お客様が笑顔になってくれるのが嬉しい」ということが実感できた気がします。
- 値段の設定や材料費から原価を考えることなど経済についても学べたと思います。
- 仕事をするの大変さ、やりがいなどさまざまなことに気づくことができました。
- 自分たちで活動を考え、それをSDGsに繋げることはすごく難しく、SDGsに関する活動をしている人たちはすごいなと思いました。
- 協力して下さる事業者様がいることへのありがたさを知ることができ、自分の中で成長と気づきの多い活動となりました。
- 果物を使用する際の保存や、見栄え、値段の決め方など、商売をする上で大切なことを多く学ぶことができました。
- 地産地消を意識した上で、なるべくゴミを出さない工夫をしながら作ることができました。

あらチャレ事務局から
3年1組5班のみなさんへ

「インスタ映えるような、インパクトのある地産地消スイーツ」というユニークな発想に驚きました。スイーツにぴったりの商品名に、購入者の方々は愛着をもって呼んでいました。みなさんがデコレーションした「もちりん」がそれぞれ個性的で可愛かったので、「もちりんアルバム」を作成し、SNSで発信してもおもしろいなと思いました。(増田)



2.3 | 各プロジェクトの取組紹介④

3年1組6班 × ハーブメイツあらかわ 様

関連するSDGs



テーマ 荒川グッズで みんな大好き荒川に!!

01 | 問題意識

荒川地域の魅力に気づくことができず、地域を離れてしまう人が多いのではないかと。

02 | 願い

- 普段の生活から荒川の魅力を感じてもらうことで、荒川をさらに好きになってもらいたい。それが地域活性化につながってほしい。
- 荒川地域のラベンダーを活用し、生活の中で使える製品を作りたい。

03 | 概要

ハーブメイツあらかわ様とコラボし、荒川グッズを作ってイベントで販売する。

04 | 流れ

- 事業者様と荒川グッズについて打ち合わせ
- 材料調達、試作、チラシ作成
- ラベンダーオイル入りの「バスボム」と「マスクチャーム」を制作
- 10月23日の地域貢献マーケットで「バスボム」、11月21日の荒島ミニマルシェで「バスボム」と「マスクチャーム」を販売

05 | 成果

- ラベンダーの香りを閉じ込めた入浴剤の「バスボム」とマスクアクセサリ「マスクチャーム」と、ラベンダーを活用した商品の開発に成功した。
- バスボムは安全面を考慮し材料を買い直したり作り直したりするなど失敗を重ねながら完成させたが、購入者からは大好評で商品化を望む声が寄せられた。

生徒の振り返り

- 若い方でも積極的に関わって地域のことを思っていて活動する姿に刺激を受けました。
- 何より、みんな笑顔で楽しそうにやっているのが一番良いな、と思いました。いつまでもこのような活動が続いてほしいと思います。
- 人の温かさに触れ、また一つ荒川地域の魅力を再確認することができました
- 地域の方々とコミュニケーションが取れたり、喜んでもらえたりするあらかわチャレンジはすごく良い取組だと思いました。
- 地域の隠れた魅力を多く見つけることができ、SDGsに対する意識が変わりました。

あらチャレ事務局から 3年1組6班のみなさんへ

ラベンダーを使っのグッズ作り。作ってみたいものが3種類候補としてあがりましたが、「是非これが作りたい」という絞り込みがなかったため、あれこれ迷って時間を取られたようです。そんな中からバスボム作りになり、失敗しながらも作り上げ、完売できた時は嬉しそうでした。(酒井)



3年2組1班 × あらかわ地区まちづくり協議会 様
おらだり育援隊 様

関連するSDGs



テーマ アートでつながる荒川まち

01 | 問題意識

現在、空き家の増加が問題となっている。それに伴い空き家に対するマイナスなイメージが大きくなっている。また、幅広い年代の方が協力して何かを作る機会が少ない。

02 | 願い

- 空き家に対する関心を高めたい。
- 荒川地域に誇れるものをたくさんの方の手で作りたい。それをやり遂げることによる達成感で、地域の人たちの荒川地域に対する愛着を高めたい。

03 | 概要

あらかわ地区まちづくり協議会やおらだり育援隊様とコラボし、地域住民の集い場となる建物の壁面や倉庫に巨大アートを描く。

04 | 流れ

- 壁画デザイン案作成(眩しくヒカレ、気球と動物)
- 10月3日 つどい場「あら、ほっ」壁画アート修復
- 10月17日、18日、11月8日 つどい場「あら、ほっ」壁画アート
- 10月24日 おらだり基地倉庫アート

05 | 成果

- 修復したラベンダー畑の壁画は、3年前に中学生が描いたものであった。今回の壁画アートも下級生に継承する活動とすることができた。
- 中学生が描いた絵はメッセージ性がある明るいデザインとなっている。地域の明るいシンボルとして地域住民に親しまれている。
- 壁画作成当日は、他の班員だけでなく、さまざまな世代が集まり共同で活動する場となった。当初のねらいどおり、地域住民を繋ぐ活動とすることができた。

生徒の振り返り

- 考えていた以上に大きな成果をもってこの企画を終えることができ、とても嬉しいです。
- みんなで大きい絵を描くことがなかったのでとても良い経験になったと思います。
- 場所の提供や準備、応援をくださった地域の方の温かさをたくさん感じることができました。
- 中学生だけで成し遂げようとしていたものに、地域の大人たちに関わっていただくことでこんなに良いものになるとは思いませんでした。
- 事業者様が本気でアドバイスをくださったおかげで、私たちの熱意も大きくなっていくのを感じました。
- 人と人の繋がりは思っていたよりもたくさんあって、みんなで協力し助け合うことで大きな力になることを知りました。
- この繋がりをこれからたくさん増やしていきたい、さらに大きな課題にも取り組みSDGs達成に少しずつでも貢献していきたいと思いました。

あらチャレ事務局から 3年2組1班のみなさんへ

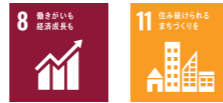
「アートでつながる荒川まち」で行った巨大アートは外作業なので、天気がとても心配でしたが、悪天候でも完成させようとする「プロジェクトに対する想い」はすばらしいと思いました。また自発的に他のチームの子たちも応援に駆けつけてくれ、より活動が盛り上がりました。(酒井)



2.3 | 各プロジェクトの取組紹介⑤

3年2組2班 × お菓子屋さんnico 様

関連するSDGs



テーマ 荒中生と地域の方々にwin-winの活動を!

01 | 問題意識

日本の食品ロスの量は世界の食料援助量より多い。また、日本の食料自給率が低い。

02 | 願い

- 地域でとれた食材を大切に美味しくいただきたい。
- 中学生も学ぶことができ、地域も元気になるwin-winの活動を広めたい。

03 | 概要

お菓子屋さんnico様とコラボし、地産地消スイーツを販売する。

04 | 流れ

- 事業者様とスイーツについて打ち合わせ
- スイーツ試食、名前の考案
- チラシ、ポスター、シール、引換券作成
- 10月23日 地域貢献マーケットで地産地消スイーツ「秋の贅沢ふわほろマロン大福」を販売
- 11月15日から店舗販売開始
- 11月21日 荒島ミニマルシェで販売

05 | 成果

- 活動を通して、中学生の学びだけでなく、事業者の方々の利益や地域住民の満足感を目指す「みんなのwin-win」という考え方を広めることができた。
- 事業者様との打ち合わせから、旬の食材や米粉の活かし方、もちもちの新食感を出すための工夫など、地域資源の魅せ方を学ぶことができた。
- 地域貢献マーケットでも大好評だったコラボスイーツは、イベント後に店頭でも販売していただき、多くの地域住民に知っていただくことができた。
- 他の班から応援を要請し、シール貼付作業や販売活動を協力して行うことができた。

生徒の振り返り

- 「人を笑顔にする=幸せ」だと思いました。
- 自分一人では全く思い付かない案を班のみんなで出し合うこと、協力して何かを成し遂げるのはすばらしいことだと実感しました。
- 地産地消の商品を作りたいと言った時に、nico様は米粉を使ったスポンジを使うことを提案してくださいました。僕たちでは考えられなかったことだったので、すごいと思いました。
- 地域貢献マーケット当日nico様が個数ごとの箱に入れて仕分けをしてくれたおかげでスムーズに販売できました。事前に準備しておくことの大切さを学びました。
- 私たち中学生の学びになり、かつ地域の活性化にもなるwin-winの活動を目指しました。商品をたくさんの方々に食べていただき喜んでもらえたと思うし、地域の方と協力し僕たちの班でしかできないことができとても楽しかったです。

あらチャレ事務局から
3年2組2班のみなさんへ

「自分たちも事業者様もみんながWin-Win(幸せ)となる企画にする」という想いが素晴らしかったです。食品ロス削減と地産地消の両立を掲げ、事業者様に提案したところ、地場産の米粉使用のアイデアをいただきました。「ふわほろ食感スイーツ」の試食時にはみんなで大喜び。商品名やチラシ、全校生徒へのアナウンスなど、随所に購買意欲を高める工夫が見られました。(増田)



3年2組3班 × 旬菜懐石 拓 様
いろむすび山菜屋 様

関連するSDGs



テーマ 健康 × 秋 × 地産地消弁当

01 | 問題意識

日本人の平均寿命と健康寿命の推移を比較すると、健康でいられる期間があまり伸びていない。

02 | 願い

- 地域の人たちにはより長く健康でいてもらいたい。そのために食の大切さを地産地消から、安心・安全・新鮮について食を通じたコミュニケーションで広めていきたい。

03 | 概要

いろむすび山菜屋様、旬菜懐石拓様とコラボし、地産地消弁当を販売する。

04 | 流れ

- 事業者様と弁当について打ち合わせ
- 弁当のコンセプトやメニュー、弁当名などを決定
- 授業内でPRポスター、外装(帯と紅葉の水引)、箸袋、ポストカードを作成
- 11月21日の荒島ミニマルシェと11月23日のつどいばおらだりで、栄養価の高い地産地消弁当「香」を販売

05 | 成果

- 事業者様と打ち合わせを重ね、地場産の食材にこだわった健康弁当を形にすることができた。
- ポスターや外装の水引きと帯、箸袋は中学生でしか表せないデザインや内容となっており、購入者に絶賛していただくものとなった。
- 中学生の意見を尊重し柔軟に対応して下さる事業者様の姿勢から、お互いを尊重し、思いやることの大切さを学ぶことができた。
- 2か月にわたり事業者様と打ち合わせや活動を行ったことにより中学生の責任感や主体性が高まった。

生徒の振り返り

- 人との繋がり大切さを改めて感じました。個人では叶わないような企画が形になる喜びと達成感は今までに感じたことがないほど大きなものでした。
- 一人のプロジェクトメンバーとして、私たち生徒がそれぞれの想いを込め提案しました。対等に接してくれる事業者の方の想いに応えるために、私もできることを尽くせた気がします。
- 荒川の魅力を深く知ることができ本当に好きになりました。
- 中学生にもできることがたくさんあるのだという考え方に変わりました。
- 一からプロジェクトを計画し、その大変さや作り上げていく側の思いの大きさに気づきました。
- 地産地消でこの地域の魅力を発信できたと思います。
- 事業者様のような人を思いやる気持ち、誰かの意見を尊重する気持ちを忘れずに活動していきたいと思います。
- 周りから意見を受け入れられていくうちに、自分に自信がついてきて、自分から仕事を引き受けるようになりました。

旬菜懐石拓様から
3年2組3班のみなさんへ

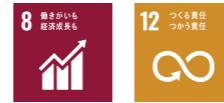
中学生の想い、アイデアをかたちにできたこと、また地域に対しての想いをいろいろなかたちにできた事で自分自身も大変刺激を受けました。何より皆で一つの目標に向かって何かをやりとげるとい事は大変な事でもあるとともにやりきった後の達成感はその上という事をあらためて感じました。皆でまた一つ進めた取組でした。ありがとうございました。



2.3 | 各プロジェクトの取組紹介⑥

3年2組4班 × あらかわ地区まちづくり協議会 様

関連するSDGs



テーマ 毎日感じる荒川

01 | 問題意識

荒川地域には素晴らしい場所がたくさんあるが、荒川の魅力を知っている人は少ないのではないかな。

02 | 願い

- 荒川地域の隠れた魅力を感じてもらいたい。
- 荒川の良さを毎日感じ、このまちを誇りに思ってもらいたい。
- 「住み続けられる地域をみんなでつくりたい」と思ってもらいたい。

03 | 概要

あらかわ地区まちづくり協議会とコラボし、荒川地域の隠れた魅力が詰まったカレンダーを制作・販売する。

04 | 流れ

- 事業者様にカレンダー作りを相談
- 材料の調達、試作、制作
- 10月9日 minzu様による写真撮影講習会参加
- 撮影技術を学んだ後、校舎内外で撮影
- 「毎日感じる荒川カレンダー」を作成
- 11月21日の荒島ミニマルシェで販売

05 | 成果

- 中学生のアイデアで試行錯誤を重ねながら「荒川の魅力を毎日感じられるカレンダー」を形にすることができた。
- 写真撮影講習会での学びから、地域に対する見方が変容した生徒が多かった。
- 掲載する地域の行事を調べながら中学生自身も地域について理解を深めることができた。
- カレンダーとしての用途だけでなく、紙箱や荒川ギャラリーなど、さまざまな形で再利用してもらおうことで、SDGsに貢献することを購入者に広めることができた。

生徒の振り返り

- 予算内でどういう形にするかたくさん悩んだけれど、悩んで決めたからこそ自分たちが納得できるものを作ることができて良かったです。
- 荒川地域の魅力を形に残るものとして多くの人に広めることができてとても良かったです。
- 計画、制作、販売とさまざまなことを学べたのでとても楽しかったです。
- みんなすごく優しくあらかわチャレンジに協力してくださって感謝しました。
- 「社会課題解決」や「持続可能な地域づくり」のために活動する楽しさを知ることができました。
- 荒川の魅力を、写真を通してたくさん知ることができ、多くの人に知ってもらいたいと思いました。視野を広くもつことの大切さを学ぶことができました。
- 計画的に進めていくことができ、完売できたこと、見てくれた人に褒めていただいたのが嬉しく達成感を得ることができました。

あらかわ地区まちづくり協議会から 3年2組4班のみなさんへ

荒川の魅力を毎日感じることができるようカレンダーとして四季折々の故郷の姿を発信することができました。企画から写真撮影講習、素材準備、制作、販売まで一連の工程を悩みながらも中学生が主体的にこなし、達成感を得ることができたことが大きな収穫となりました。また、使用済みのカレンダーは壁紙や、折り箱としてリサイクル活用を促し、SDGsの視点をさらに高めたアイデアにとっても関心しました。(小田)



3年2組5班 × いづみや旅館 様

関連するSDGs



テーマ 荒川を楽しもう～自然 × 荒川～

01 | 問題意識

絶滅危惧種に指定されているトミヨという魚が荒川に生息しているが、荒川の河川敷にはゴミが多かった。そのまま河川や土壌の汚染が続けば、生物の住みやすい場所が減少し、魚が生息できなくなってしまうのではないかな。

02 | 願い

- 荒川の自然や生物を守りたい。
- 環境保全について多くの人たちの意識を高めたい。

03 | 概要

鮭とトミヨのキーホルダーを制作し販売する。

04 | 流れ

- いづみや旅館の伊藤様から荒川の生物やダム建設による影響等を学習
- 材料の調達、試作、制作、ポスター作り
- 中学生オリジナル「鮭とトミヨのキーホルダー」を制作
- 10月23日の地域貢献マーケットと11月21日の荒島ミニマルシェで販売
- いづみや旅館様というむすびの宿様でも販売

05 | 成果

- 荒川の環境や生態系の変化について学んだことで、環境保全への関心が高まった。
- 環境に関する学びを自分たちの地域に対する想いと共にチラシにまとめ、購入者に届けることができた。
- 地域内の宿泊施設にご協力をいただき県外の鮭釣りのお客様にも購入していただいた。事業者様がSNSで発信してくださったこともあり、県外の方々に広く発信することができた。

生徒の振り返り

- 荒川がどんどん汚れていっていることに、他人事ではないように感じました。
- 私たち人間が川や海に手を加えたり周辺に建物を建設したことにより、川が汚染されたり、石が少なくなり、砂となって流れて、魚が住む場所が減っていると知りました。
- 魚の住む場所が失われ、荒川から魚が消えてしまうかもしれない。「もっと多くの人にこの現状を知ってもらいたい」という気持ちで取り組むことができました。
- キーホルダーを買ってくださった方々が、パンフレットを見てどんな風を感じたのか、考えたのかを、質問できたら良いなと思いました。
- トミヨや鮭の生息している環境や地域の現状を知ることができたので、もっと自然環境や荒川への関心を高めていきたいと思いました。

あらかわ地区まちづくり協議会から 3年2組5班のみなさんへ

開発に伴う川の環境や生態系の変化を学び、「荒川に生息する魚を守りたい」という思いを強く制作に励んでいました。全て手作りの鮭とトミヨのキーホルダーは細部に渡って工夫があり、購入者からは大好評。商品は完売したものの「ここからが大事。絶滅危惧種の存在をもっと知ってもらわなくては」と次を見据えるその高い意識に感心しました。(増田)

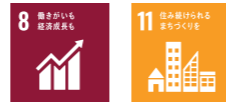


2.3 | 各プロジェクトの取組紹介⑦

3年2組6班 × 村上新聞社 様

テーマ 荒川のマンガ

関連するSDGs



01 | 問題意識

荒川地域ではここ数年で閉店してしまった店舗が多い。地域の経済が衰退してしまうのではないかと心配している。

02 | 願い

- 地域経済を活性化させるために地域の魅力を知ってもらいたい。
- 地域のお店でお金を使ってもらいたい。

03 | 概要

親しみやすいマンガで地域の魅力を発信する。

04 | 流れ

- 漫画家の方より、取材のポイント、マンガの描き方を学習
- マンガの内容について話し合い、試作
- HAPPY SUGAR様、ふくちやcafe様、かねま鮮魚様に取材
- 中学生オリジナルのマンガを3作品作成
- 村上新聞にて掲載

05 | 成果

- 事前にマンガ作りにおける取材の重要性を学んでいたため、班員で分担しさまざまな角度から質問し情報を収集した。その情報をもとにお店の特徴を上手く捉えたマンガが完成した。
- 1コマA4サイズで作られたマンガは細部に渡り丁寧に描かれており、また、中学生ならではの視点やストーリーが面白く、お店の方にも喜んでいただくことができた。
- 村上新聞社様に掲載していただいたことで、地域にお店を広く知っていただくマンガとなった。

生徒の振り返り

- 地域の事業者の方々のお話は、とても興味深かったです。
- 自分たちのアイデアで自分たちが主体となって動いたので、貢献しているという実感をより強く得ることができました。
- この活動で、荒川には意外と知られていない魅力があることがわかった。
- 少しずつ身近にSDGsなどの地域貢献活動を広めていきたいと思いました。
- 絵は意外と上手くかけたし、オチもしっかり考えられて楽しい活動になりました。
- お店のこだわりや工夫、強い想いに触れ、素敵なお店が地元にあることを誇らしく思いました。
- 地域経済活性化を学んだときに、「地域の中でできることは地域の中です」とこの重要性を感じました。

あらチャレ事務局から
3年2組6班のみなさんへ

オリジナルの荒川キャラクターがキャッチーで、マンガのストーリーも秀逸！地域のお店を多くの人に知ってもらおうと、自分たちで選んだお店にアポを取り取材していました。ストーリー、文字、キャラクター、背景などそれぞれ担当を決め、班員全員で協力しながら丁寧に作り上げた3作品。ぜひシリーズ化してほしい。(増田)



3年3組1班 × あらかわ地区まちづくり協議会 様

テーマ 荒川オンラインツアー

関連するSDGs



01 | 問題意識

新型コロナウイルスの影響で、観光がしにくい状況になり、荒川地域を知ってもらう機会が減っている。

02 | 願い

- 逆境を乗り越え、持続可能な荒川地域を目指していきたい。
- オンラインで地域内外の人に荒川の魅力を知ってもらい、誰でもいつでも帰って来れるような故郷であってほしい。

03 | 概要

あらかわ地区まちづくり協議会とコラボし、荒川オンラインツアーの動画を制作し、オンラインで公開する。

04 | 流れ

- 取材場所の決定
- 絵コンテ(ナレーション)づくり
- 下見、撮影ロケ
- 11月より、YouTube「あらかわまちづくり協議会」チャンネルで、荒川地域を紹介する「Enjoy Localオンラインツアー」の動画配信

05 | 成果

- コロナ禍でも「逆境を乗り越えて地域を楽しむ(Enjoy Local)」をYou Tube配信したことで他地域の人も含む多くの人たちに知ってもらうことができた。
- 今回は実現しなかったが、オンラインツアーとセットで地域を楽しむ「ランダーキットのオンライン販売」を考案し、新たな荒川地域の楽しみ方として提案することができた。
- 動画制作の活動を通して、地域の魅力をより深く考えることができた。

生徒の振り返り

- 動画を作り発信することで荒川の人だけではなく、遠いところに住む人も荒川地域の運動公園に行ったように見えるのがとても良いと思います。
- 荒川地域を巡り、新たな魅力を発見することができました。動画を見てくれた人が実際に来てくれることを願っています。
- この活動を通して「荒川地域の魅力ってこんなにあったんだ」とか「荒川地域ってこんなに良いところなのか」など今までは見ていなかったところに目を向けられるようになりました。この活動で普段見えないところにもたくさん魅力があるということを知ることができました。
- 事業者様と協力して「荒川オンラインツアー」という形で世の中に荒川地域を発信することができたことはとても貴重な経験でした。

あらチャレ事務局から
3年3組1班のみなさんへ

コロナ禍という逆境を乗り越えて、地域の魅力をオンライン動画で発信し、観光や移住者を増やそうと考えただけでなく、活動に取り組んだ中学生自身も地域の魅力を再発見したことが大きな収穫となった。また、地域の外出が困難な高齢者などにも、季節の便りを届けるスポットや絵コンテに仕上げた中学生のアイデアは素晴らしい。(小田)



オンラインツアー



2.3 | 各プロジェクトの取組紹介⑧

3年3組2班 × Fe Factorycafe109 様

テーマ **地域の食材を生かして
荒川の魅力を共有しよう!**

関連するSDGs



01 | 問題意識

荒川地域は少子高齢化により、以前と比べて活気が少ないように感じる。加えて、コロナ禍で自粛が続き、地域の魅力を楽しむ機会が少ない。

02 | 願い

- この荒川地域が100年先も残り続ける地域であってほしい。
- 荒川地域の魅力を多くの人に伝えたい。
- 地産地消を広めることで、地域の人たちが関わる機会を増やしたい。

03 | 概要

Fe Factory cafe109様とコラボし、地産地消キッシュを販売する。

04 | 流れ

- お店のこだわりなどを知るために取材
- 事業者様と商品について打ち合わせ
- チラシ、引換券、シール、レシピを作成
- 地場産の野菜と卵が入った「幸せの卵de地産地消キッシュ」を10月23日の地域貢献マーケットで販売
- 11月15日から店舗販売開始
- 11月21日 荒島ミニマルシェで販売
- 11月23日 つどいばおらだりで販売

05 | 成果

- 地域の野菜の楽しみ方としてキッシュを提案し、事業者様により製品にいただいた。野菜の甘さが際立ち誰でも美味しくいただけるキッシュを多くの人に購入していただくことができた。
- 事業者様から伺った作り方を手書きでまとめ購入者に配布したレシピは、「いつでも地域の野菜を美味しく楽しめる」と好評だった。
- チラシやシール、レシピなど内容やデザインの工夫を凝らしたものを完成させた。

生徒の振り返り

- 地産地消の食材を使ってこんなに美味しいキッシュができるのだとみんなに広めることができ嬉しく思います。
- たくさんの方がキッシュを購入してくれて、今までよりさらに荒川の良さを広めることができ良かったと思います。
- この荒川地域にもいろいろな問題や課題があることに驚きました。
- 事業者さんと同じ目標に向かっていろいろな活動をする楽しさを知ることができ、貴重な経験となりました。
- 自分たちが考えて企画したものを購入していただける喜びを知ることができました。

Fe Factorycafe109 様から
3年3組2班のみなさんへ

中学生のアイデアで、当店の特徴である烏骨鶏の卵を使ったキッシュを開発し、店舗やイベントで販売し、お客様からとても喜んでいただきました。中学生が作成したポップを店頭に掲示していると、市外から来られるお客様と荒川中学校やSDGsの話になり、多くの方にSDGsの取組のことを知っていただけました。何より、地元の中学生と一緒に活動できたこと、イベントを通して地域の方々とのつながりができたことが嬉しかったです。



3年3組3班 × あらかわ地区まちづくり協議会 様

テーマ **きれい!住みたい!
魅力的な地域を目指して
~Make Arakawa a better city~**

関連するSDGs



01 | 問題意識

海洋プラスチックによる環境汚染や生態系への影響が深刻である。私たちの地域も例外ではない。

02 | 願い

- みんなで「荒川を守る意識」を高め、この地域の自然をこの先ずっと守り続けたい。

03 | 概要

あらかわ地区まちづくり協議会とコラボし、地域住民とゴミ拾いイベントを行い、地域のゴミゼロを目指す。

04 | 流れ

- ゴミ拾いイベントのルール決定
- ゴミ拾いコースの下見
- 下見で見つけたゴミの種類をもとにビンゴシート、チラシ作成
- ふくちやcafe様にクーポン券発行の依頼
- 11月23日に全世代の人が楽しめるゲーム感覚のゴミ拾いイベント「ビンゴdeごみゼロ作戦」を実施

05 | 成果

- イベント終了時に参加者から「時間を延長したい」「第二弾も企画してほしい」など前向きな感想が聞かれ、満足度の高さが伺えた。
- 「ゴミ拾いビンゴ」としてチーム戦で行ったことで、短時間ではあったが、さまざまな世代の参加者が関わり合い楽しんでゴミ拾いをする様子が見られた。
- 路上に落ちているゴミが想定していたより多く、「このままではいけない」と参加者の意識を高めるものとなった。

生徒の振り返り

- 参加者の皆さんの熱がすごくて、私たちも元気をもらいました。
- 中学生が考えた企画でもみんな楽しそうに参加していて、本当にこの企画を考えて良かったと思いました。
- あらチャレを行う前はなかなかやってみたいことができず後悔ばかりでした。あらチャレを通してたくさんの新しい出会いがあったおかげで、挑戦することや、諦めないことの大切さを学びました。
- 具体的な願いや目標をもち、達成できるように考え行動していくことが必要だと学びました。
- 中学生だけでもこれほどの企画ができることが本当にすごいと感じました。ゼロから企画を考えるのは大変でしたが、地域のために活動できて良かったです。機会があれば、また地域貢献活動をしていきたいです。
- 今起こっている世界の問題の解決策はどうか、自分だったらどうするかなど、普段の生活に結びつけながら考えて生活するようになりました。

あらチャレ事務局から
3年3組3班のみなさんへ

「ゲーム感覚のごみ拾い」を軸に企画から実施まで生徒さん主体で運営を行いました。準備を行う中で、実施内容の決定、下見の実施とコース変更、事業者さんへの協賛のお願いまで、生徒さん自身で力強く意思決定をしていく様子にとっても感心しました。また、当日は悪天候だったにもかかわらず多くの方に参加していただけたことがとても良かったです。(櫻井)



2.3 | 各プロジェクトの取組紹介⑨

3年3組4班 × フードバンクむらかみ様
ふくちやcafe様

関連するSDGs



テーマ Happyベジタブル
～食を通してみんなに幸せを～

01 | 問題意識

日本の相対的貧困率は6人に1人。食料自給率の低下や食品ロスなどの食に関する問題も深刻となっている。

02 | 願い

- 社会の隅々まで目配りできる優しさ、食の大切さを実感できる活動をしたい。
- 食を通して地域の皆さんに幸せになってほしい。

03 | 概要

フードバンクむらかみ様、ふくちやcafe様とコラボし、フードドライブとごちピンメニュー開発を行う。

04 | 流れ

- フードバンクむらかみ様より村上市の貧困の現状や活動の意義などを学習
- フードドライブの協力を呼びかけるチラシを作成・地域に配布
- 10月18日～23日 校内フードドライブを実施(23日は地域にも呼びかけた)
- ふくちやcafe様のごちピンの意義(おやつではなく補食として子どもたちに提供)を学習
- 一人一品、ごちピンレシピを作成
- 11月30日 ふくちやcafe様にレシピ集をお届け

05 | 成果

- チラシや校内放送を通じてフードドライブの意義を呼びかけたことで、生徒や職員、地域の方々に多くの食料品や日用品を寄付していただくことができた。
- 活動を通して、「人と人の繋がりの大切さ、支え合う地域のあり方」を学ぶことができた。
- ごちピンメニュー作成を通して、栄養バランスや子どもの成長における補食の役割などを学ぶことができた。
- 中学生オリジナルのごちピンレシピ集をお届けすることができた。

生徒の振り返り

- 村上市でもコロナウイルスの影響で、職を失ったり仕事が減ってしまった人たちが多くいることを知りました。他人事ではなく私たちにもできることをやろうと考え、呼びかけました。
- 自分たちの活動が誰かのためになったかもしれないと思うと嬉しかったです。
- フードドライブを通してたくさんのお会いがありました。
- 地域の皆さんからいただいた生活用品や食べ物がこれから村上市の方々に届くと思うと大きな達成感とともに村上市のために活動する喜びを感じました。
- これからも自分の地域のために良い働きかけを行っていきたくし、その活動を広めていきたいです。
- みんな地域や人のことを思って食品などを提供してくれているのだと知り、地域の皆様の優しさを感じました。
- メニュー開発では子ども達の健康を考えてメニューを考えたのでとても難しかったです。

あらチャレ事務局から
3年3組4班のみなさんへ

SDGsの「誰一人取り残さない」を企画の中軸とし、2つの企画をやり切る実行力に感心しました。フードドライブの実施に向けて、地域の相対的貧困の現状やフードバンク事業の意義を学び、自分たちにできることを真剣に考えチラシを作成しました。期間中は、多くの地域住民の協力があり、互いに支え合う地域の姿を生徒たちは学んでいました。栄養価を考えて作成したごちピンメニュー開発では中学生の個性が光るレシピ集ができあがりました。(増田)



3年3組5班 × HAPPY SUGAR 様

関連するSDGs



テーマ ラベンダー実は、、、
タベラレルンダー

01 | 問題意識

地域の過疎化が深刻である。また、荒川地域には魅力がないと思っている人、特産品をラベンダーと知らない人が多いのではないかと。

02 | 願い

- 地域を元気にするために、荒川の特産品であるラベンダーを『食』という形で多くの人に広めたい。
- 荒川地域の魅力発信、地域活性化に貢献する活動を行いたい。

03 | 概要

HAPPY SUGAR様とコラボし、ラベンダースイーツを販売する。

04 | 流れ

- ラベンダースイーツの試作
- 事業者様とスイーツの打ち合わせ
- チラシ、引換券、帯作り
- お店でクッキーづくり
- 10月23日 地域貢献マーケットで「ラベンダー香る荒川クッキー」と「ラベンダー香る荒川シフォンケーキ」を販売
- 11月21日 荒島ミニマルシェで販売

05 | 成果

- 企画書作成後、中学生だけで3種類のラベンダースイーツを試作り、ラベンダーの新しい活用法を事業者の皆さまに提案することができた。
- 事業者様によりラベンダーの風味豊かなスイーツを製品化していただいた。普段観賞用として楽しむラベンダーが食用としても楽しめることを伝えることができた。
- 4日間のお店での作業を通じて、ものづくりの過程や仕事への向き合い方を学ぶことができた。

生徒の振り返り

- この荒川というまちにも魅力がたくさんあることがわかりました。
- ハッピーシュガーさんでのクッキー作り、包装、帯まきなどを通して、私自身が楽しんで活動していたことがわかりました。とにかく楽しかったです。
- 班のメンバーとともにクッキー作りをしたからこそ、みんなで協力して作り上げることの楽しさを学ぶことができました。
- 形としてこの活動を残していくことが大切だと気づかせてくれた企画だったと思います。
- 地域の人たちと協力して、同じ目標を持って実現に向けて活動することはこんなに楽しく達成感のあるものなのだと思います。
- 僕たちだけでなく地域みんなが地域をよくしようと、同じ志をもってしていると知りすごく嬉しい気持ちになりました。

あらチャレ事務局から
3年3組5班のみなさんへ

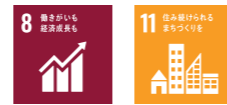
企画発表前から自分達で試作を行い、商品制作時には寒空でも半袖短パンで自転車移動が出来るほどの気合い！で満ちていた生徒もいました。ハッピーシュガーさんご協力のもと、全員で作ったラベンダースイーツは後日店頭でも「美味しかった！」と感想を言われるほどの美味しさでした。みんなの気合いと熱意が伝わって良かった！(柏檜)



2.3 | 各プロジェクトの取組紹介⑩

3年3組6班 × 荒川商工会青年部 様

関連するSDGs



テーマ 地域を知る“荒川パンフレット”

01 | 問題意識

荒川地域の魅力をあまりわからない人が多いのではないか。荒川地域を紹介するパンフレットがない。

02 | 願い

- 地域の人に荒川地域を好きになってほしい。
- 一人でも多くの人に荒川地域に立ち寄りてほしい。
- 荒川地域が少しでも活気付いてほしい。

03 | 概要

荒川商工会青年部様とコラボし、荒川地域の魅力が詰まったパンフレットを制作し、配布する。

04 | 流れ

- 商工会青年部様とパンフレット内容の打ち合わせ
- 1人1ページ原稿作成
- 10月23日地域貢献マーケットと11月21日荒島ミニマルシェで、荒川パンフレット「みつけた荒マップ」を配布

05 | 成果

- 中学生ならではの視点で食、自然、祭り、穴場スポットがまとめられた、荒川地域のオリジナルパンフレットが完成した。
- パンフレットは荒川商工会、村上市荒川支所にも置いていただき多くの方々に手に取っていただくことができた。
- 中学生は、商工会青年部様より、円滑な話し合いの進め方や、役割分担、仕事の段取りなど働き方についても学ぶことができた。

生徒の振り返り

- この小さな荒川というまちにも魅力がたくさんあることを知ることができました。
- 改めて自分の住んでいる地域を知ることができました。
- 自分たちは荒川に住んでいるので「他の地域の人たちの目線から見た荒川の魅力」というところから自分は魅力を考えました。
- 自分たちだけでなく後輩にも引き継いでいきたいです。
- 荒川の特産品などを調べるようになり、以前よりも荒川が好きになりました。
- 商工会青年部様のような円滑に物事を考え、活動を進めていくというのは初めてだったので圧巻でした。
- 予定通りにやることもでき、順調ではあったけど、個性を反映したらもっといいなと感じました。中学生のフレッシュさが足りなかったように思います。

あらチャレ事務局から
3年3組6班のみなさんへ

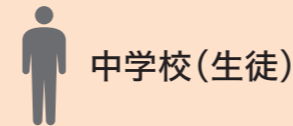
最初の打ち合せでは自分達の想いを伝えるのが難しかったみんなも、荒中の先輩である商工会青年部員の方たちと話し合い、アドバイスをもらいながら、魅力がいっぱいつまった荒マップを完成させました。青雲祭やイベントで一生懸命に配布する姿も素晴らしかった。荒川の自然もお祭りも食も、みんなの笑顔も伝わった企画でした！（柏檜）



第3章 振り返りと評価

3.1 | 振り返り① 短期的成果(1年間)

この事業の実践によって得られた1年以内の短期的な成果は以下の通りです。



中学校(生徒)

社会課題・地域課題の自分ごと化

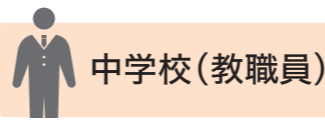
社会や地域の課題(地方の過疎化・経済衰退、自然環境の汚染など)を、深く自分自身の課題としてとらえ、より良くしたいと考えるようになりました。「これまでは全く知らなかった荒川の絶滅危惧種の魚であるトミヨを、どのようにすれば皆に知ってもらえるようになるかをずっと考えている」などの声が上がりました。

地域の大人から得た教科書を超える学び

ものづくりの現場などで地域の大人と一緒に仕事をする経験を通じて、仕事に対する姿勢や考え方、実際の苦労に触れるなど、教科書を超えた学びを得ることができました。「割烹のご主人が営業後に徹夜で共同開発惣菜の仕込みをしたにもかかわらず、一言も苦労の言葉が出ずに驚いた」などの声が上がりました。

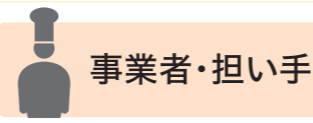
思考力の向上と心の成長

SDGsの視点で社会の現状を認識し、問いを立て、解決に向けた取組を計画し、実行しました。それによって、物事を深く、筋道立てて考えるなど思考力が育まれました。班での活動や複数人数でのプロジェクト作業を通じて、他人を思いやるなどの心の成長が促されました。



中学校(教職員)

事業で生まれた成果や生徒の変容により「社会に開かれた教育の実践」の重要性が学校内で共有されました。地域と連携した教育の実践については、「地域連携コーディネーター」に相当する役割が確立され、学校内(教職員)や学校外(PTA、市役所、事業者、住民)の連携がより強化されるなど、現場での実践的な知識が蓄積されました。



事業者・担い手

生徒との共同活動を通じて、事業に関する新しい気づきを得る事業者が生まれました。「これまでは使ってこなかった地域の素材を使った美味しい惣菜を作るきっかけになった」という声がありました。地域住民が深くかかわることで、事業に関する理解や親しみが増し、事業者への来店回数や反響が増えました。



地域住民

活動を通じた成果(地産地消の食品や啓発を行うグッズ類の製作)として、SDGsや地域の課題をより身近な話題として捉えることができました。

地域全体 | 所属・世代・立場を越えて地域全体では、以下の成果がありました。

わくわく感の醸成

活動自体に、“わくわく”した楽しみや喜びを見出すことができました。

パートナーシップの体感(ヨコの関係、ナナメの関係)

生徒間、学校教職員間などの同じ所属内での関係(ヨコの関係)、事業者間、学校生徒と地域の事業者など、所属と世代が異なる関係(ナナメの関係)が育まれました。お互いを尊重することの大切さを再認識するとともに、自尊心、自己肯定感、自己有用感を高め合うことができました。

社会参画意識の向上

自分たち一人一人が、地域を構成するメンバーなのだという社会参画意識が向上しました。

3.2 | 振り返り② 中期的成果(3~4年間)

3~4年間の中期的な期間で得られた成果は、以下の通りです。

事業成果の拡大(規模)

事業を継続することで、さまざまな立場・世代の方々が、地域貢献活動に参画するようになりました。それによって、幅広い事業が生まれました。

幅広い立場・所属からの参加

事業者、地域団体、学校関係者、行政職員など、より幅広い立場や所属の方々が、この事業に参加し、成果が生み出されました。



幅広い世代の参加

幼児から高齢者まで幅広い世代の方々がこの事業に参加しました。特にこれまで“空白地帯”とされていた、若者層(10代~20代)が地域づくり活動へ参加し、成果が生み出されました。

事業成果の高まり(質)

事業を継続することで、経験と学びが蓄積されました。その知見は、年度毎に改善・活用され、事業成果の質が年々高まりました。また、前述の事業成果の拡大(規模)が、参加者の考え方や価値観の多様化につながり、事業成果が上がるという、好循環(スパイラル)が生まれました。

成果物の質の向上

年度ごとの経験と学びが蓄積されたことで、利用者の利用動線より意識した啓発商品を製作できました。

参画動機の明確化と深い納得感

参加者が、継続的に関わり、年度毎の成果(中学生の変容など)を見聞きする中で、取組に対する“深い納得感”を得ることができました。それにより、事業への深い参画動機を生むことができました。〔私は若者の未来に投資する〕など



社会参画意識が“風土”に

地域住民の社会参画に対する意識が、学校内・地域内に定着し、「地球規模の広い視点を持ちながら、地域を良くする」という学校風土・地域風土が育まれつつあります。

成果の波及

事業を継続することで、成果が波及しました。他地域に多方面に波及することにより、幅広い地域社会に良い影響を生み出すことができました。

他地域への横展開

本地域での取組が、他地域に展開され、実践されました。事業の横展開により、広く社会的な成果を生み出すことにつながりました。(例:新潟県胎内市立中条中学校など)

社会的な認知の向上と拡大

本地域での取組が、メディアやSNSを通じて他地域に発信され、活動の認知度が向上しました。認知が向上することにより、産官学連携の取組への関心が高まりました。関心が高まることで、視察や研修が増え、本事業の知見やノウハウを他地域に展開することで、より広く社会的効果を生み出すことにつながりました。(例:村上市山北地区からの視察、新潟市西蒲区社会福祉協議会での事例紹介、市報むらかみ2022年2月1日号での特集記事掲載)

啓発とアドボカシー(政策提言)

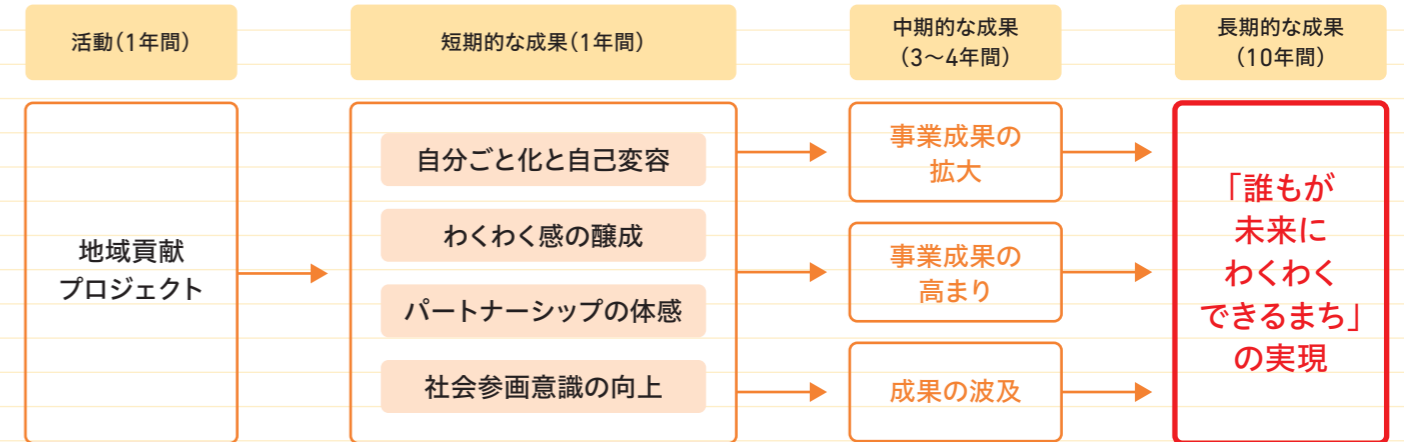
本地域での取組を通じて、より広く社会参画を啓発することにもつながりました。(例:村上市議会への中学生による政策提案)

3.3 | 評価① 成果のまとめと今後

これまでの取組を評価し、今後の取組を展望します。

成果まとめ(全体俯瞰)

本事業の短期・中期・長期的な成果のまとめは以下の通りです。



今後期待される長期的成果(10年間)

10年間を見据えた際、より幅広い立場や世代の方々の事業への参加が期待されます。ひとりひとりの心の中に湧き出すワクワクとした気持ち(内発的動機)を根本動機として、さまざまな立場・世代の方々が協力し助け合いが生まれます。それによって、これまで考えつかなかった新しい視点で地域貢献活動に取り組むことができます。皆が学び、自己変容し、地域が持続するための成果を生み出していくことが見込まれます。それらの活動を通じて、生きた現場での知見やノウハウが蓄積されます。より良い地域内の連帯感を育み、社会参画・挑戦する風土が定着します。これにより、成果の規模と質が両輪で成長してゆくための、好循環(スパイラル)が生み出されます。さらに、現場での実践的な知識は、積極的に他地域に展開し、社会全体により良い効果を生み出すことが期待されます。

これら一連の活動を通じて、持続可能な地域社会としての「誰もが未来にワクワクできるまち」が実現されます。

今後見込まれる課題

地域内で三方よしの実現

地域内での三方よし(地域教育、地域貢献、挑戦の土壌)を理念に掲げています。しかし、地域教育と地域貢献の両立は細かな調整が必要です。例えば、本事業には、中学校(生徒)の教育のために、地域事業者が、現場での学習機会を提供するという側面があります。一方で、「中学校(生徒)が、地域事業者や地域のために貢献(商品の販促など)をする」という側面があります。一方の成果づくりに注力しすぎると、他方の成果が弱くなる場合があります。両者への成果をバランスよく生み出すための、まちづくり現場でのコーディネート方法について、現場ノウハウの蓄積が求められています。

事業の仕組みづくり

取組を継続させ、社会への成果を継続的に生み出してゆくために、事業の仕組みづくりが不可欠です。特に、年度単位で人員が流動する、学校(中学校)・商工会・行政(市役所)で構成されている事業体制が課題です。属人的な熱意や努力だけによらない事業のマニュアル化や仕組みづくりが求められています。



ビジョン浸透

より幅広い立場や世代の方々が参加しやすくなるよう、ビジョンのさらなる浸透が必要です。

3.4 | 評価② 成功要因・他地域への提言

本事業のプロセスについて振り返り、成功要因を抽出しました。

成功要因

原体験と投げかけ(小さな勇気)

本事業のはじまりは6年前(2016年)にさかのぼります。発起人(荒川中学校増田教諭)が、海外研修においてSDGs教育によって生徒やその周囲が大きく変容するという“原体験”をし、帰国後、学校教育の現場で実践したいと投げかけたことがきっかけです。

ビジョン → 期待と共感が連鎖

本発起人の「中学生への社会参画と自己変容」を促したいという強い思いは、企画書として提案されました。発起人の提案するビジョンと強い熱意が、関係者の期待と共感を生みしました。



小さな成功(Small Win)

本提案に対して、当初懐疑的な反応と好意的な反応がありましたが、発起人が試験的な取組を行い、小さな成功体験を重ねることで、関係者の深い納得感を生みしました。



わくわく感(内発的動機)

小さな成功体験を重ねていく中で、次第に関係者の中に“わくわく”とした感情や活動に参加する喜び・楽しさ、やりがい(内発的動機)が芽生えていきました。

活動基盤の整備

上記の期待・共感・わくわく感の波及によって、四つの活動基盤が整備されました。

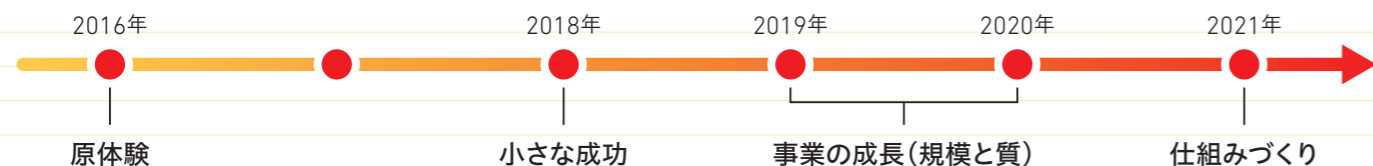
- キーパーソン
地域内のキーパーソンの参加につながりました。特定のスキルがある、特定の分野に深い知識・知見を有する、特定人脈があるなどのキーパーソンは各々の強みで、事業に貢献しました。
- コミュニティ
キーパーソンを中心として、コミュニティが形成されました。コミュニティ内でメンバーが連絡を取り合い、考え方を共有することで内発的動機がさらに促されました。知識やスキルなどの無形資産が効果的に提供されました。
- カネ(予算)
活動の原資となる予算が確保されました。(あらかわ地区まちづくり協議会全体事業として)
- 地域ブランディングと情報発信
キーパーソンによって地域ブランディングと積極的な情報発信が促されました。

寛容性と自由にまちづくりへ関わる余地をつくる

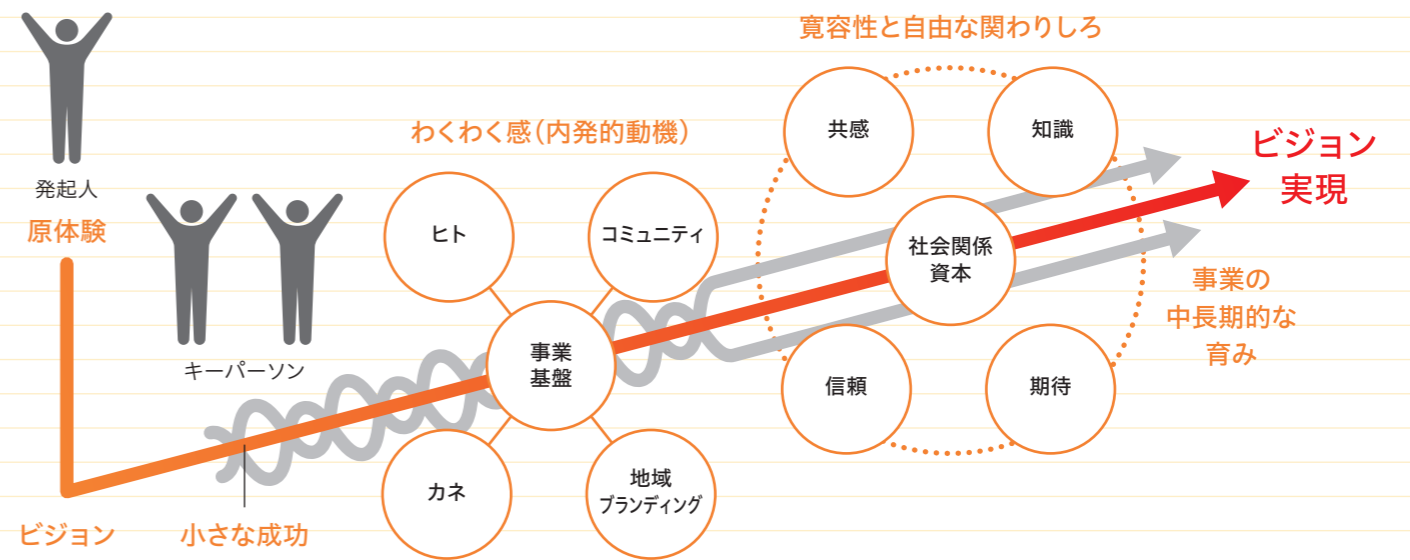
わくわく感という内発的動機を重視する中で、寛容性を持って自由にまちづくりへ関わる余地をつくることを皆で保証していこうとする意識が育まれていきました。

焦らずじっくりと(事業の中長期的な育み)

この事業は4年間をかけて段階的に育まれました。焦らずじっくりと、中長期の目線で捉えることにより、事業が着実に地域に定着していきました。



成功要因の流れ



今後の取組(展望)

この事業では、振り返りと評価を踏まえて、以下のような取り組みを行っていきます。事業を通じて、持続可能な地域社会としての「誰もが未来にわくわくできるまち」の実現に寄与していきます。

- より幅広い立場・世代の方に参加いただける事業づくりに取り組みます。特に参加の少ない、若者の皆様に参加いただける事業をつくっていきます。
- 皆様の、わくわくとした気持ち(内発的動機)に働きかけていきます。
- 地域内での三方よし(地域教育、地域貢献、挑戦の土壌)の実現のために、より踏み込んだ取組を行なっていきます。
- 事業の仕組みづくりとマニュアル化に取り組みます。
- 事業ビジョンの浸透と啓発に取り組みます。
- 事業で得た知見・現場ノウハウを積極的に他地域の皆様に横展開していきます。

他地域への提言

最後に、学校教育・まちづくりに携わる他地域の皆様へ以下を提案いたします。本提案が皆様の学校教育・まちづくりの現場において一助となりましたら、この上ない喜びです。

- 発起人の原体験と一石を投じる働きかけから事業ははじまります。ビジョンづくりは欠かせません。
- 事業の展開にあたっては、信頼や共感という無形資産(社会関係資本)を地域内に蓄積することが肝となります。この蓄積を継続することは、事業を成長させる上での大きな足がかりとなります。
- 内発的動機を活動の根本的動機にすることは極めて有効です。また、そのために地域が許容性を持ち、自由にまちづくりへ関わる余地をつくることを保証することが重要と考えます。地域の有力者やキーパーソンが率先して、地域内の関係者に対して、許容してゆくよう働きかけを行い、良い雰囲気を作っていくなどの取組が不可欠です。
- 具体的な取組として、事業基盤の整備が必要です。ヒト・コミュニティ・カネ・ブランディングと情報発信の四軸で必要なものを取捨選択することが必要です。
- 事業を中長期的な視点で成長させることにより、確実に地域内に定着されることが期待できます。



3.5 | 事務局より



01

荒川中学校
地域コーディネーター兼
あらかわチャレンジ
事務局長

さかい さちこ
酒井 幸子

巨大アートチームは、作業に人手を要するため、自分たちで仲間に協力を要請し3カ所の壁画を完成させ、その熱意と行動力に驚きました。ラベンダーグッズチームのアイデアにもとても感心しました。「自分さえ良ければいい」ということではなく、地域のために中学生が自分の時間を削ってでも、一生懸命考えて、協力し実行する。その結果、地域の人に喜びを与え、与えることの幸福を彼らも手にしたに違いないと思います。



02

荒川中学校
総合学習担当

ますだ ゆき
増田 有貴

総合担当として意識したことは、世界や地域の問題と自分との繋がりを考える授業デザインです。今年は地域と中学生を繋ぐために、まち歩きイベントや地域団体の会議に積極的に参加しました。また、事務局内の連携がスムーズにいくよう、授業内容や生徒の関心事・問題意識などを共有しました。事務局で役割分担ができていたため、負担感なく授業づくりと各班のサポートに専念することができたのは大変ありがたかったです。地域の大人と出会った生徒は本気そのもの。事業者様と共に企画実現に走り出す生徒の姿に頼もしさを感じました。



03

あらかわ地区
まちづくり協議会

ふるばやし たくや
古林 拓也

事業全体の企画、地産地消弁当の開発コーディネートに関わらせて頂きました。中学生は、地域の実際の仕事現場に触れ、苦労をしながら頑張ってくださり、表情が変わってゆかれたことがとても印象的でした。また地域の大人も、これまで考えたこともない表現方法やアイデアの切り口など多くを学ばせて頂きました。最後に地産地消弁当が出来た際は、とても胸が熱くなりました。活動を通じて、他者を思いやる気持ちの大切さなど人として根本的なことに気づかせて頂きました。



04

荒川商工会

かしやぐら かずこ
柏櫓 和子

企画発表会の調整、事業者とのマッチング支援、報道機関に向けた情報発信などを行いました。また、「地域経済について～」を少し難しいかな…と思いながらも中学生に授業でお話したところ、事業者の現況や経済活性化の重要性について理解してもらうことができ嬉しく思いました。活動に際しては、事業者の負担軽減と有益性について、もっと支援できたのではないかと反省しています。今後このチャレンジが末長く地域に根付き、会員事業者と地域全体が活性化するよう取り組んでいきたいと思っています。



05

あらかわ地区
まちづくり協議会

すがい としひろ
須貝 俊大

伴走者とのマッチングに取り組み、写真講座の企画、トミヨ学習やおらだり育援隊とのつなぎ役をしました。「つどいば おらだり2021」では、タイムテーブル管理やチラシ制作など全体統括をしました。正直、私には「これをやりたい!」というものがなく、熱意がある人の支援や前に進むための仕組み作りが楽しみです。本業があるため時間制約がありますが、熱意あるあらかわの太陽たちをサポートし、活躍を観測するのが喜びです。

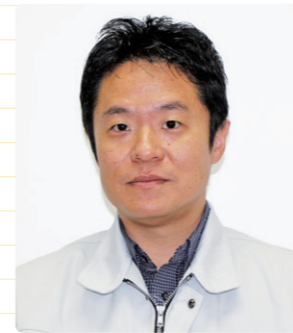


06

新潟大学

さくらい りゅうき
櫻井 隆樹

大学生の私については、「この取組自体が若者目線からどのように見えるのか」を事務局内にもたらすという場面が多かったです。「明るく元気なまちであってほしい」「未来に残り続けるまちであってほしい」「未来に向けてチャレンジができる、わくわくできるまちであってほしい」などの想いを、当チャレンジのロゴやタグライン、コンセプトストーリーの制作を通して伝えることができました。そしてこれからも、このまちの明るい未来を地域のみなさんと一緒につくっていかれたらと思います!



07

村上市荒川支所

おだ かずひろ
小田 和浩

中学生のアイデアに対し、これまでの広報取材活動を通じて得た住民や事業者の想いを重ね、WinWinの関係を構築できるよう事業者への協力要請を行いました。事業実施時には、成果発表イベントの企画運営及び、食品販売についての保健所との調整を行いました。特に意識して力を入れたのは、広報活動!どんなに良い活動も、みんなに知ってもらえなければ効果は上がりません。そして、頑張る人にスポットライトをあて背中を後押しすることを大切に活動しました。活動に関わってくださった皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

あらかわチャレンジ事務局は、小さな産官学の取組「あらかわチャレンジ」が、地域の特徴ある活動として継続するために発足しました。

メンバーは、職業や年齢、そして本事業へのねらいも少しづつ異なりますが、地域を愛し、その未来を真剣に想う熱い気持ちは一つでした。それぞれの特技や特徴を活かし、前向きで互いに高め合えるメンバーが集まっています。

事務局では、趣旨に賛同し、一緒に活動される方を随時募集しています。また、本事業に興味がある場合には事務局に所属せず活動に参加することも大歓迎です。

あらかわチャレンジにご興味がある方やアイデアをお持ちの方はお気軽にお声がけください。



3.6 | 中学校(生徒)より

Q あらチャレで自分にどんな変化があった?

自意識の変化

- SDGsを学び、これからの世界がどうなっていくかは僕たち次第ということに気づき、人のために行動する楽しさを知った。
- 地域活性化への繋がりを広い視野で考えるようになり、ニュースなどで環境問題や地域のことに目を向けるようになった。

地域への愛着の醸成

- 地域の人たちとの繋がりを大切に、環境保全やごみ削減などへの意識が高まった。
- 荒川地域のことについて授業外でも深く考えるようになり、地域に対する見方や、お店に興味や感謝の気持ちを持つようになった。

SDGsの視点による課題解決

- SDGsのロゴが貼られているお店などの取組を調べるようになった。
- 世界の諸問題の解決策について、中学生にもできることを考えて行動するようになった。

Q あらチャレとはどのような場?

荒川地域の人たちの絆が深まる

- 世代関係なく地域の人々と一緒に本気で活動でき、自分のやってみたい!が形となり、喜びを分かち合える。

中学生ならではの地域貢献

- 中学生の視点によるユニークなアイデアにより地域の魅力を再確認し、荒川地域の良さを地域内外に発信することができる。

ありがたい未来をかなえる

- SDGsの視点から、地域の未来のために行動することができる。
- 世界の問題や地域の問題に関わり、自分たちが願う地域に近づけることができる。

自分の成長

- 自分らしさを表現し、将来に役立つ力を鍛え、人として成長できる。

Q あらチャレで大切なことは?

意欲・熱意・パートナーシップ

- あらチャレへの意欲。チャレンジ精神。積極的な協力と参加。
- 地域を変えたいと思う気持ちを行動に変える。
- 自分の提案に責任と自信を持つ。
- 楽しむこと。感謝の気持ち。信頼関係を築く。

企画とスケジュールの練り上げ

- 「これはなぜ必要なのか」、「地域貢献に結びつくか」など多角的に考え、見通しをもったスケジュール計画を立てしっかり話し合う。
- 世界や地域の問題に対し、さまざまな人の立場や自分ごととして考え、自分の意見をどんどん伝え、的確なアドバイスをもらい試行錯誤すること。

事業の継続性

- ありがたい未来を見据えて地域を想い、チャレンジを続けていくこと。

! あらチャレについて下級生にアドバイス!

活動の楽しさ

- 本気になって考え活動することで、地域に貢献しているという実感がわき、自分まで楽しくなります。
- あらチャレは荒川からSDGsを発信していけるものなので、世界を変える一歩になるという考えで真剣に取り組んでほしい。

3年間の学びをカタチに

- SDGsの学習の積み重ねが、あらチャレで出るので、1、2年生でしっかり勉強してね。
- 幅広いジャンルのことができるので、自分のやりたいことは声に出そう。

地域への想い

- 地域の人との関わりを大切に真剣に向き合うことで、自分の住む地域の未来を変えることができる大切な機会です。

自分を変えるチャンス

- 自分の発想を大事に「やってみよう」を形にすることで、多くの気づきや学びがあり、自分が成長できます。

おわりに

地域の将来を担う子どもたちと、地域の大人が共に考えながら、自分が住む地域から学びを深めたあらかわチャレンジ。

その結果、自分たちでも実現可能なSDGsを探し出し、たくさんの人とつながる楽しさも経験することができました。中学生という心のまだ柔らかい時期に、その心にSDGsの種が蒔かれたことは地域の大人としても深い喜びを感じました。

国際連合が定めるSDGsの目標達成期限である2030年まで、あと8年。その時、彼らはもう大人になっています。心に蒔かれた種は枯れることなく、さらに芽を伸ばし、明るい未来に目をむけ、次世代の子どもたちと共に行動し、チャレンジの連鎖が続いてほしいと願っています。

最後に、この事業でお世話になった皆様に、心から御礼申し上げますとともに、今後も住みよい地域とするため、みんなで手をつなぎチャレンジの輪を広げていきましょう。

つづくみらい、つくるこころみ。 あらかわチャレンジ!

あらかわチャレンジ事務局長 酒井 幸子

この事業でお世話になった皆様

- いづみや旅館 様
- いろむすび山菜屋 様
- いろむすびの宿 様
- Fe Factorycafe109 様
- 御菓子の小島屋 様
- お菓子屋さんnico 様
- かねま鮮魚 様
- 近忠浩 様
- 旬菜懐石拓 様
- HAPPY SUGAR 様
- パティスリーマルヤ 様
- フードバンクむらかみ 様
- ふくちやcafe 様
- 村上新聞社 様
- あらかわ地区まちづくり協議会
おらだり育援隊 様
ハーブメイツあらかわ 様
minzu 様
横山卓哉 様
- 荒川商工会
青年部 様

活動支援金の提供

村上法人会荒川支部 様

あらチャレのあしあと

SDGsの視点による、産官学連携のまちづくり 2021年度報告書

2022年2月28日発行

●著者

あらかわチャレンジ事務局
酒井幸子(事務局長)、古林拓也、柏檜和子、小田和浩
須貝俊大、齋藤瞳、櫻井隆樹、増田有貴

●発行

あらかわチャレンジ事務局
(あらかわ地区まちづくり協議会、荒川商工会、荒川中学校)

●問い合わせ先

あらかわチャレンジ事務局(村上市荒川支所地域振興課内)
〒959-3133 新潟県村上市山口444番地 TEL:0254-62-3102

